

2021/7/17

中学生模擬国連会議報告書

報告： 沖館伽良・後藤雅尚（関高校2年）

主催： 関高等学校 関市観光協会

会場： せきてらす（地域交流施設）

参加： 中学生20名 高校生5名



●目次

企画実施の経緯	2
企画構成	2
会議経過	4
決議案	5
会議中の様子	8
感想・今後に向けて	11

《企画実施の経緯》

関高校ではこれまで、2018年に校内生徒対象の模擬国連を実施し、続く2019年、近隣の公立中学校に通う生徒を対象とした企画を実施した。さらに2021年にはコロナ禍による1年間のブランクを経て、中学生対象の第2回企画を実施した。このような企画は、国内において前例がないといわれる（中川慶『関高校模擬国連企画報告書』2019）。

《企画の構成》

今回の模擬国連会議の構成は、参加経験のない中学生に配慮したものとした。加えて、事前課題・資料の作成、概要説明から講評にいたる当日の企画・運営まで、すべて高校生（沖館・後藤の2名）が執り行った。

1.事前課題・資料の作成

本企画において、これまでに開催された2回の企画資料を基に、次のように取り組んだ。まず、「模擬国連会議 参加の手引き」を作成した。ここでは、本企画の概要と模擬国連会議の詳細、また事前に行うことや当日の流れについて説明を行なった。これを読んだ参加者が、本企画の一連の流れだけでなく模擬国連会議についても知ることができるように作成をした。

次に、「PPP(ポジション&ポリシーペーパー)」の作成をした。今回は、私たちが参加してきた模擬国連会議などを参考にしながら、より実践に近い形式をとった。以前までは、国の基本的な情報や議題に関わるデータをまとめるポジションペーパーと議題に対する自国の意見や当日の戦略をまとめるポリシーペーパーの2つに分けられていた。しかし、今会議では、この2つの資料を1つにすることで、参加者に少しでも模擬国連会議を体感してもらうことにした。そのために、「PPP 見本」を作成することで、参加者に書き方について大まかに記した。この際の注意として、参加者に対して、見本に縛られることなく自由な発想をしてほしいことを同時に記した。

また、「PPP」を作成する際の参考資料として「ドリンクメニュー原材料別 生産量ランキング」「国別基本情報」を作成した。他にも、会議の流れを知ってもらうために、参考動画のURLを用意した。

2.概要説明

企画当日の冒頭において、全体の流れに関する説明を行った。具体的には、以下の通りである。

- 模擬国連に関する説明
- 会議の内容（国連カフェについて）
- 会議の流れ（全体交渉・自由交渉・決議文書の作成）
- タイムスケジュール

3.会議当日

今回の会議においては、「簡易プロシージャー」を採用した。簡易プロシージャーにおいては、大使がモーション（全体交渉、個別交渉、決議案の提出）を行わず、議長がモーションを発動することとした。これは、初心者である参加者がプロシージャーを理解するのは非常に難しいため、一部を省略しようとしたためである。また、参加者が議論を深めることを第一に考えたためでもある。

役職	担当者	業務内容
合同議長	関高生	<ul style="list-style-type: none"> ●会議の流れの説明（その都度実施） ●大使からの質問受付 ●議事進行（英語と日本語を使用） ●全体交渉（モデレート・コーカス）の仕切り人（ファシリテーター）を務める ●決議案の取りまとめ
秘書官	関高生	●議事録の作成（大使や合同議長の発言などを記録）

今回の議題は、以下の通り「国連カフェのメニューの決定」とした。これは、「ニューヨークの国連本部内に『国連カフェ』を開店させることになり、この会議において、そのメニュー（ドリンク6品・フード6品）を決定してほしい」と国連広報センター（United Nations Information Center）から提案があったという想定にした。

種別	内容
議題	「国連カフェのメニューの決定」※実在しない (Deciding the menu of United Nations Café)
設定会議	第73回国際連合総会本会議 (73 rd Session of the United Nations General Assembly Plenary Meeting)
論点1	ドリンクメニュー <ul style="list-style-type: none"> ●6個まで、産地は4つまで可とする ●産地の表示を義務づける
論点2	フードメニュー <ul style="list-style-type: none"> ●6個まで、産地はいくつあっても可とする ●産地の表示を義務づけない
論点外	<ul style="list-style-type: none"> ●メニュー・産地の日替わり制 ●季節限定メニュー ●ドリンク・フードのセットメニュー

今会議において、ドリンクメニューとフードメニューで産地表示に関して表示する国数と義務の有無を設定した。これは、ドリンクで自国の産地が入らなくても（国益がなくても）、

表示国数に制限がなく、表示義務もないフードを提案できれば、国益の達成につながるようにしたためである。

また、論点外（今会議で議論できない事項・禁止事項）をメニューの「日替わり制」「季節限定メニュー」「セットメニュー」とした。これは、メニューの増加を意図的に防ぐためである。参加者にはメニュー案を積極的に出してもらいたい一方で、敢えてメニュー数を「6個まで」と制限し、大使間でのメニューの議論をより白熱したものにしてもらいたかった。つまり、単なるメニュー案出しの会議ではなく、11か国が出したメニュー案をいかに6個という枠内収めていくのかを工夫してほしかったのである。

《会議経過》

会議は、議長の開会宣言と出欠確認によって始められた。

●全体交渉①（45分）

各国のメニュー案の共有を経て、議論の進め方に関する議論が行われた。冒頭のメニュー案共有では、写真や動画、ポスター、また実物が用いられており、とても分かりやすく魅力的なプレゼンとなった。

その後の議論では、沢山の意見が出てきたが、主に議論されたのは、次の自由交渉①で、似たようなメニュー案を出した国ごとで分けるか、メニューに使われる食材の種類ごとで分けるかというものだった。ここでは、多文化共生やフードロスなど様々な観点から議論された。結果として、今後どのように分けて議論していくかについては、時間いっぱいまで議論されたが、決定されぬまま次に移行された。

●自由交渉②（45分）

全体交渉①での議論をもとに、大使間でのメニュー案のすり合わせが主に行われていた。2国間での交渉が多く見受けられた。そして、お昼休憩に入った。

●全体交渉②（30分）

お昼休憩後の全体交渉②においては、まず始めに自由交渉①で各大使が話し合っただけで決定されたメニュー案の共有が行われた。メニュー数に関しては、冒頭に出たメニュー案より減っており、多くの大使が交渉に成功したのがよくわかった。しかし、フードメニューは数が上限を超え、ドリンクメニューの産地表示については条件を満たされていないメニューがいくつかあった。メニュー共有以外の議論では、メニュー案に対する質問や意見を述べる大使が多く、中には宗教の面で配慮や産地における発展途上国と先進国の比率について言及する大使もいた。他にも、今後の方針を話し、決議文書完成に向けた議論があった。

●自由交渉②（30分+延長10分）

全体交渉を踏まえ、自国の利益を重視しつつも、他国との関係を守るための有意義な交渉が行われた。また、議論がより一層深められそうだったことと時間の都合の関係で、議長裁量により10分間の延長を提案され、大使の賛成多数により延長がされた。

【自由交渉②終了後、議長裁量により自由交渉②の時と同じ理由で、自由交渉③（20分+延長10分）と全体交渉④（20分）が追加された】

●全体交渉③（30分）

現時点でのメニュー案の共有が行われた。フードが10個・ドリンクが8個であった。その後、メニュー数を枠内に収めるための議論、前回の全体交渉に引き続く宗教や多文化、フードロスが話し合いの焦点に当てられた。

●自由交渉③（20分+延長10分）

その後、自由交渉③においては、決議案の作成が行われていた。グループの中心になり意見を取りまとめる大使や積極的に質問や意見を述べる大使ばかりで、時間は残り僅かとなり焦燥感に駆られる中ではあったが、ここでも素晴らしい議論が繰り広げられていた。

●全体交渉④（30分）

最後の全体交渉④（30分）では、決議文書の提出と大使と議長による最終チェックが行われた。決議文書は2つ提出された。

●決議文書の採択

その後、決議文書が2つ出たため「ロールコール（多数決）投票」に移行された。結果は、決議文書が1つ可決された。

こうして、約4時間にも及んだ会議は、白熱した議論のうちに終了した。

《決議案》

○決議文書1（否決）

Seki High School Model United Nations

MA/Ple/73/DR.1



General Assembly

Distr.: Limited
Original: Japanese

Seventy-third session

Agenda item: Deciding the menu of United Nations Café

Draft Resolution

The General Assembly (国際連合総会は),

Recalling that United Nations Café would be built in the headquarter in the United Nations in New York in 73nd session,

第73会期において、ニューヨークの国際連合本部内に国連カフェの設置が決定されたことを想起し、

Recalling the concept of United Nations Café as “Multi-Culture, Refresh, and food loss”

国連カフェのコンセプトを「多文化及びリフレッシュ及びフードロス」とすることを認識し、

1. *Decides* the drink menu of United Nations Café as the following;

ドリンクメニューを以下の通り決定する。

	ドリンクメニュー	産地 (4つまで)
1	レモラスカッシュ	インド、トルコ、アメリカ、ブラジル
2	紅茶	中国、インド、フランス、イタリア
3	アップルコットティー	
4	アートティー	
5	ボヌール	イラン、フランス、中国、イタリア
6	チャイティーシェイク	

2. *Decides* the food menu of United Nations Café as the following.

フードメニューを以下のとおり決定する。

	フードメニュー
1	トマト煮
2	レモンラーメン
3	カレコロ (大豆ミート)
4	パフェ (マカロン付き)
5	ハンバーガー
6	ビーフカラング



General Assembly

Distr.: Limited
Original: Japanese

Seventy-third session

Agenda item: Deciding the menu of United Nations Café

Draft Resolution

The General Assembly (国際連合総会は),

Recalling that United Nations Café would be built in the headquarter in the United Nations in New York in 73nd session,

第 73 会期において、ニューヨークの国際連合本部内に国連カフェの設置が決定されたことを想起し、

Recalling the concept of United Nations Café as “Multi-Culture, Refresh, and food loss”

国連カフェのコンセプトを「多文化及びリフレッシュ及びフードロス」とすることを認識し、

1. *Decides* the drink menu of United Nations Café as the following;

ドリンクメニューを以下の通り決定する。

	ドリンクメニュー	産地 (4つまで)
1	レモラスカッシュ	インド、アメリカ、トルコ、ブラジル
2	チャイティーシェイク	イラン、インド、ケニア、ブラジル
3	ボヌール	フランス、イタリア、イラン、中国
4	アートティー	ケニア、ブラジル
5	MIX	ブラジル、フィリピン、ケニア
6	ココナッツミルク	フィリピン、日本、イタリア、フランス

2. *Decides* the food menu of United Nations Café as the following.

フードメニューを以下のとおり決定する。

	フードメニュー
1	レモラスカッシュ
2	チャイティーシェイク
3	ボヌール
4	アートティー
5	MIX
6	ココナッツミルク

～会議中の様子～

◇関市の観光交流施設（せきてらす）で実施
議長席（左）と議場の様子（右）



◇全体交渉①

各国大使がメニュー案について、発表・共有を行った



◇全体交渉①

今後の議論の進め方について話し合った



◇自由交渉①

先の全体交渉を踏まえ、メニュー案について話し合った



◇全体交渉②

先の自由交渉を踏まえ、メニュー案の共有とメニュー案に関する議論が行われた



◇中学生の創意工夫

提案メニューの試作品や食品サンプル（左） カラフルな図解（右）



◇全体交渉③④

最終的な国連カフェのメニュー案を共有し、メニュー案の評価と修正を行った



☆表彰式☆

最優秀大使賞 インド大使

優秀大使賞 中国大使



《感想・今後に向けて》

初めに、初心者である中学生が、このような素晴らしい議論ができるとは思っていませんでした。冒頭のプレゼンから、写真、ポスター、また実物を用いて、発表できるのは正直予想外だった。

最初の全体交渉は、日本大使（加茂高生）主導で行われていくものと思われたが、日本大使のみならず中学生大使がどんどん手を上げ意見の表明をしていたことが素晴らしかった。また高校生大使に対する反論も臆することなく、1国の大使として、意見を表明する姿は賞賛すべき点である。その中でも今回は、手引きを読んで参加している生徒が多く、手引きに沿った議論が展開され非常に建設的だったといえる。なかには、国連の理念や、経済発展にまでつながられている大使がおり会議のレベルを上げてくれたと思う。

また次の自由交渉では、2国間での、メニュー案の中のすり合わせが多くみられ、それはスピーチを意識して聞かないとできないことでそれができたことは、素晴らしく思った。今回は、もう少し、複数国間での交渉が広がるとよい。しかし、高校生顔負けの主張、譲歩が散見され活発な議論になった。

次の全体交渉では、午前中よりは、静かではあったが、日本大使の意見に反論、賛同する形で議論が始まっていった。次第に、中学生大使、特にインド大使を中心に主導権を握っていった。なかでも、中国大使による言及（発展途上国と先進国の関係性）は特筆に値する。

次の自由交渉は、臨時に入ったものであったのだが、大使は、臨機応変に対応をし、メニュー案の作成までにいろんな国の利益が上がるように交渉を進めていたことが素晴らしい。特に、原産地ベースで考えて意見を合わせて行くことは、この会議の本質を突くものであり、また準備のたまものであると考えてよいだろう。

さらに次の全体交渉では、メニュー案の共有をし、次の自由交渉に向けた、進め方について、またそれぞれへの質問、と活発さも見られた。

そして、最後の自由交渉は、日本大使、インド大使、中国大使が、積極的なグルーピングで2つの決議案を出していたが、皆で話し合えたのかといわれると疑問が残る。また、最後の決議案の書き方の説明が分かりにくい部分があったのは我々の責任である。

最後、結果的に2本のDR（決議文書）が提出され、それぞれの説明があった、ここでの反省点は、1本のDRを先に説明させてしまったことによって、メニュー案発表が、前後してしまったことである。さらに言えば、DRについて中学生大使に説明を求めるべきであった。

しかし、大使はその後積極的な質問を通して、お互いの意見を表明しあいDRの採択に向かった。結果、DR2が採択されたものの類似点が多くみられ、この会議はほぼ1つにまとまったといっても過言ではない。だが、結果的に一部で行われた「二重外交」を認めてしまったのが残念な点である。今後、後半部分の改善が必要となってくる。

我々の反省としては以下の点を指摘しておきたい。準備の段階ではPPP（ポジション&ポリシーペーパー）の作成など事前の準備の部分はよくできていたと思われる。特に自分た

ちですべてスケジュール管理して取り組むことができた。しかし、当日必要なものがあまり管理できなかった部分はある。前日のリハーサルは効果的であったと思う。

当日の議事進行は、前半、後半ともに順調にできたが最終セッションで手間取った。DR説明は手引きに書いておくべきだった。また決議のリハーサルをもう少ししておくべきだった。

今後に向けて行う活動としては、来年度の中学生模擬国連開催に向けた準備である。

今回の中学生模擬国連は、先ほども述べたように、予想以上に大使役の中学生が積極的な議論をしてくれたおかげで大成功だったといえる。その一方で、準備の段階から会議終了まで全体をみたときに、やはり改善点や不十分な点があった。先ほども述べたが、特に会議後半部分の改善が必要である。具体的には、議事録を記入する表が足りなくなったことと当日使用したタブレットの充電不足があった。これらは、運営側が様々な状況を想定し、準備をすることができていなかったことが原因であると考えられる。他にも、大使に対するDRの説明が不十分だったことにより、DRの採択の流れが難航してしまったことなどが挙げられる。原因としては、「参加の手引き」や会議開始前での説明がされていなかったことと運営スタッフの人員不足などであると考えている。そして、今後やっていくべきことは、以上に挙げられた改善点を来年度以降の中学生模擬国連に反映させていくことである。先ほどは、問題点とその原因を考察していったが、みるとそこまで難しい問題ではない。むしろ、すぐに改善できることばかりである。だから、次回の中学生模擬国連は今回よりもより一層円滑に進むだろうと思う。また、大使の方々が緊張感を抱きながらも気軽に意見が発表でき、楽しく議論が行える環境または雰囲気を作っていくために準備を進めていきたい。

また、今回のような「生徒主体の企画」を今後も続けていきたいと考えている。今回は先生のすすめにより、今会議における企画と運営をすべて私たちが担うこととなった。そして、この体制を今回限りで終わらせてはいけないと考える。理由は、多くの生徒に主体性を身につけてほしいからである。私たち自身においても、この企画を始めてから、自身の考えに基づき今後の方針を立て、その方針に沿って最後まで責任を持った行動が取れるようになった。また、今後は「主体性」が重要視されていることから、模擬国連を通して学びを得てほしいと考える。また、模擬国連から得られるものはこれだけでない。ここで話し合われたことがより良い形で社会に反映されることや、友達の輪が広がること、様々な世界問題に触れ興味関心を広げられることなどがある。大使へ行った事後アンケートでは「難しかったけどいい経験になった」「他人の意見を聞いて新しい見方ができるようになりました」「とにかく楽しかった」という感想が得られた。今後は、こういったことも含めて、沢山の利点があるこの素晴らしい活動の継続・拡大に努めていきたい。

最後に、今回の企画実施にあたり、顧問の先生方をはじめ、中学校の先生方、関市観光協会の方々、そしてこの企画に関わったすべての皆様に、改めて感謝申し上げます。